

# 琉球大学学術リポジトリ

## [COE研究員研究概要] 短尾類を対象とした琉球列島の生物多様性研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2009-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 成瀬, 貫, Naruse, Tohru メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/10077">http://hdl.handle.net/20.500.12000/10077</a>

— COE研究員研究概要 —

## 短尾類を対象とした琉球列島の生物多様性研究

成瀬 貫 (種の多様性研究グループ・2004年10月～2006年3月)

生物多様性とは文字通り生物の多様さを示す用語である。この「多様さ」は、他との比較によりその高低が評価されるが、比較に十分な情報が得られている生物分類群は、実は非常に限られている。また、日本の南方に位置する島嶼よりなる琉球列島は、必然的に多くの生物分類群において生物多様性が国内で最も高い地域となっているが、これをさらに南方の地域と比較する様な研究は多くない。

COE 研究員として在任した約 1 年半の間に、私は琉球列島に分布する短尾類の分類学的研究を行い、生物多様性研究の最も基礎となる情報収集に努めた。陸水産カニ類 8 科を対象に野外調査と文献情報を整理した結果、琉球列島に 48 属 118 種の汽水生カニ類が分布していることが分かった。これは 44 属 112 種が知られている台湾よりも多く、九州 (28 属 42 種) の約 3 倍の種数であった。また、琉球列島の陸水産カニ類 118 種のうち 56% の種が台湾には分布していないことが分かった。琉球列島または台湾のどちらかだけに分布する種についてその分布特性を比較した結果、琉球列島には、東アフリカからハワイやフレンチポリネシアまで分布する広域分布種や、インドカ

ら東アジアに分布域をもつ種の比率が台湾より高いことが分かった。これに対し、台湾では東アジア (日本～中国南東部) 固有種や台湾固有種の比率が高いことが分かった。これらの結果から、琉球列島は分布拡大能力の高い種が多く、台湾では中国大陸の動物相の影響を強く受けていることが示唆された。また、この調査の過程で、琉球列島から 3 新種と日本初記録種 3 種を発見・記載した (図 1)。さらに、琉球列島の中においてもその特異な生物相で注目されている中城湾と金武湾において行った調査からも 3 新種と多くの新記録種を報告した (図 2)。



図 2. 中城・金武湾での潜水調査。

スキューバダイビングとドレッジングを組み合わせた採集調査。

このようにして得られた情報は、地域間における生物地理学的なつながりを調べる重要なデータとなり、また各地の生物多様性が形成されてきた過程を探るヒントを与える。本研究で得られた基礎情報を、周辺地域において行う野外調査や博物館標本を用いた調査、ならびに分類学的に問題のあるグループの再検討などより、琉球列島の生物多様性を広い視野に立って評価する研究につなげて行きたい。



図 1. 本研究中に発見・記載された新種ドウツモクズガニ *Orcovita miruku* Naruse & Tamura, 2006.

遺伝子の多様性  
研究グループ

種の多様性  
研究グループ

生態系の多様性  
研究グループ

活動報告・その他